



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「①つくしくまわりを ②がおてあいさつを ③ちんとくつならべ」

令和6年度 第41号
熊本市立植木小学校
令和6年10月31日
校長 東田 昌樹

修学旅行を通して、人を楽しませる人に。人を支えられる人に。

天気に恵まれ、6年生70人全員が、元気に参加できた素晴らしい修学旅行でした。

友達と協力をして、班でまとまった行動ができました。自分のことだけでなく、友達のことを気遣う場面がたくさん見られました。朝のあいさつ、お礼のあいさつなど、自分から進んですることができました。「はいっ」という気持ちよい返事ができました。食事の後始末、部屋の片づけ等が整然とできました。相槌を打ったり、適切なリアクションをとったりしながら話をしっかり聞くことができました。5分前行動、素早い集合で、次の行動に遅れることがありませんでした。

学校生活でも気づき、考え、行動できる6年生です。修学旅行という学校以外の場においてもしっかりとできていました。添乗員さんやバスガイドさんにたくさん褒められました。学習を修める「修学旅行」という場にふさわしい6年生の姿でした。

解散式では、次のような話をしました。



思い出に残る楽しい修学旅行でしたね。このような修学旅行ができたのは、たくさんの方々の支えがあったからです。

さて、この修学旅行を通して、みなさんはどれぐらいの方にお世話になったでしょうか？振り返ってみてください。

添乗員さん、バスガイドさん、運転手さん、カメラマンさん、ガイドしてくださった方、ホテルの方、先生、友だち、そしておうちの方、もっとたくさんいらっしゃいます。たくさんの方々の支えがあって、この修学旅行ができました。

ここで、バスガイドさんがおっしゃっていた原爆資料館の「焼き場に立つ少年」の写真を思い出してほしいです。原爆で亡くなった弟をおんぶして焼き場に立つ少年の姿を。一人になって頼る人が誰もいない少年の苦しさを。

バスガイドさんが「困ったときに助けてくれ人がいるのは幸せなことだよ」とおっしゃいました。この少年のような思いをする人がいる世界にはなりません。

みなさんには修学旅行のような楽しいことを支えてくれる方々がいます。反対に困ったとき、辛いときに助けてくれる方々もいます。困ったとき、辛いときに自分で何とかしなければならないことはほとんどありません。まわりの方々から支えられていることは、本当に幸せなことです。

修学旅行をきっかけに、改めてまわりの方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

そして、これからみなさんが、さらにまわりの方々をenschめる人に、そして、困っている人、悩んでいる人を支えられる人になってほしいです。それが平和な世界につながると思います。